

# 離島・北部3村における 地域包括ケアシステム構築モデル事業

## 国頭村における 取組みについて

国頭村地域包括支援センター  
主任介護支援専門員 中村 ルミ子

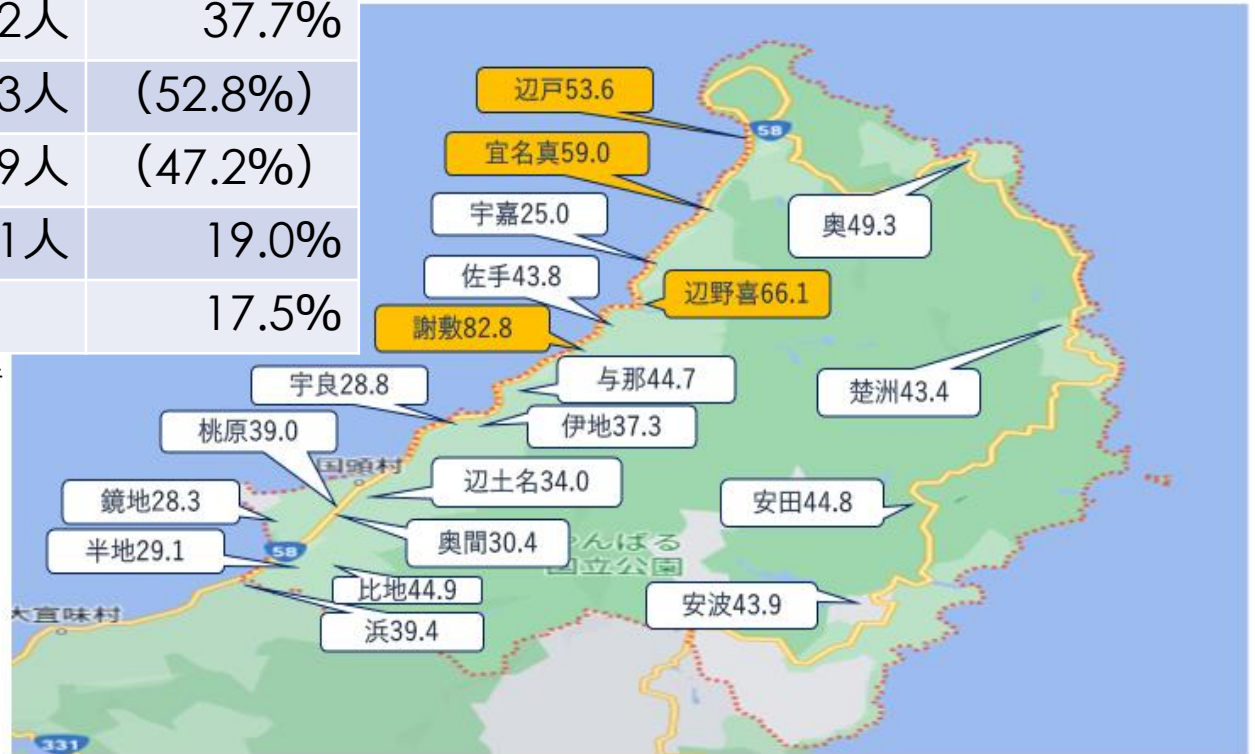
国頭村は沖縄県の最北端に位置し、面積は沖縄県で5番目に大きい。村域の95%が森林原野でヤンバルクイナや、ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなどの固有種が多く生息している。山地が海岸近くまで迫る地形で各集落は、河川の形成する極狭い平野に20行政区が立地する。令和3年7月26日世界遺産に登録されました。



# 国頭村の概況

国頭村の概況 (令和5年3月31日)		率
人口	4,494人	
65歳以上	1,692人	37.7%
65～74歳	893人	(52.8%)
75歳以上	799人	(47.2%)
要介護認定者数	321人	19.0%
調整済み認定率		17.5%

出典：介護保険事業状況報告



※行政区の高齢化率

## 国頭村内の介護施設及び介護サービス【施設系】

○介護施設	定員
特別老人ホーム北斗園	90床
グループホーム国頭	9床
グループホーム鏡地	9床

○生活支援ハウス	定員
楚洲あさひの丘 生活支援ハウス	14床



## 国頭村内の介護施設及び介護サービス【居宅・医療】

居宅介護サービス	定員
ショートステイ（北斗園）	3床
北斗園デイサービスセンター	25人/日
トレーニングリハビリ くにながみ	18人/日
楚洲あさひの丘デイサービスセンター	15人/日
ホームヘルプ事業所北斗園	

### その他


あけみおの里訪問リハビリ（勝山病院）
軽度生活支援事業（ヘルパー）
くいなリハビリデイ（通所C）
くいなサロン（社協）
ミニデイサービス（社協委託）

村内の医療機関  
○国頭村立診療所  
○東部へき地診療所  
○国頭村立歯科診療所  
○のと歯科

## 「離島・北部3村における地域包括ケアシステム構築モデル事業」

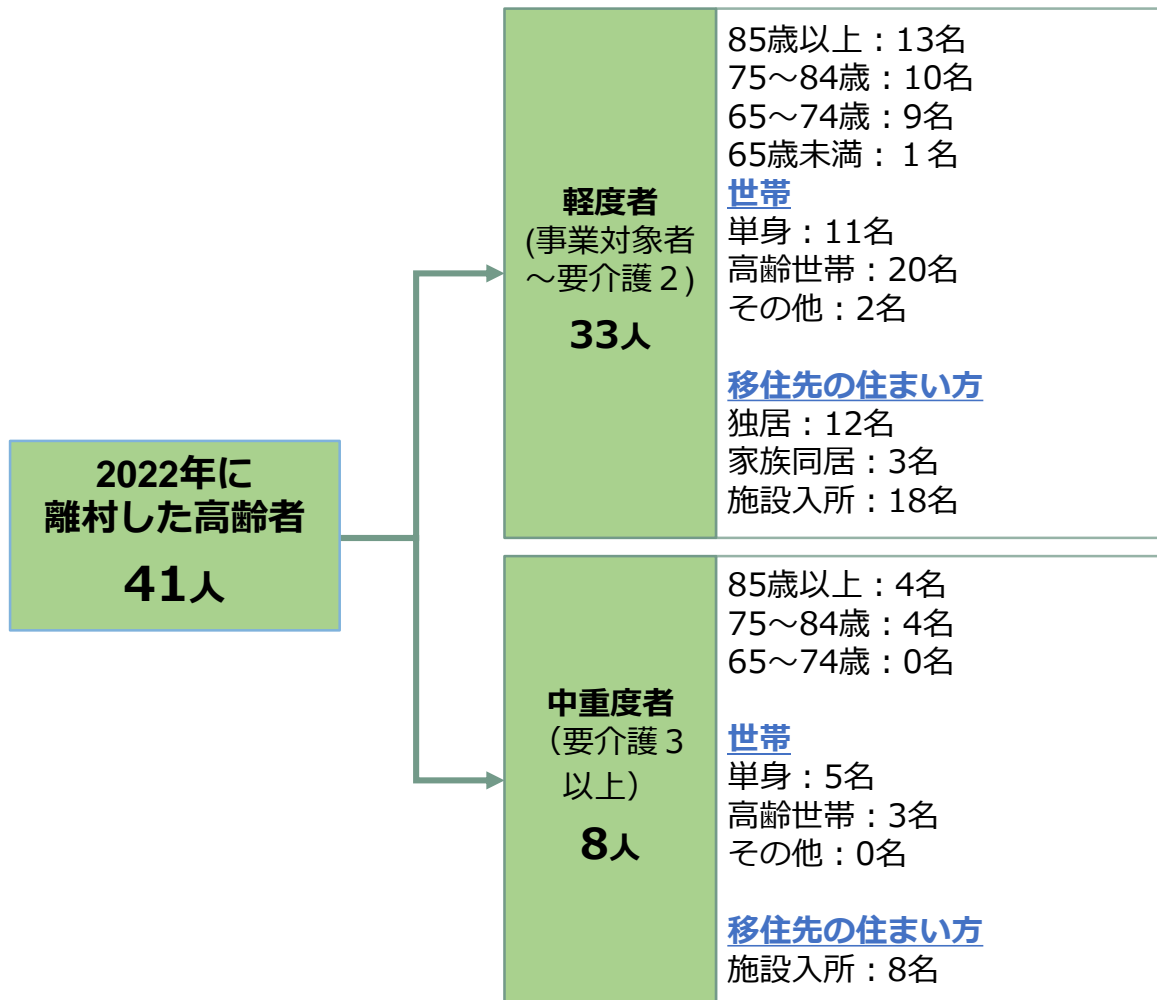
---

1. モデル町村の募集、決定
  - 令和4年7月21日 「モデル事業説明会」
  - モデル自治体の募集
  - 令和4年8月\_\_\_\_ モデル自治体の決定 = 国頭村、大宜味村、伊江村
2. ヒアリング（地域の状況や担当職員の問題意識等の聞き取り）
  - 令和4年11月

- 
3. 「村を離れた高齢者の調査」実施
  4. 集計、分析
  5. 調査結果を踏まえた「国頭村における取組み」の検討
  6. 取組みの実施

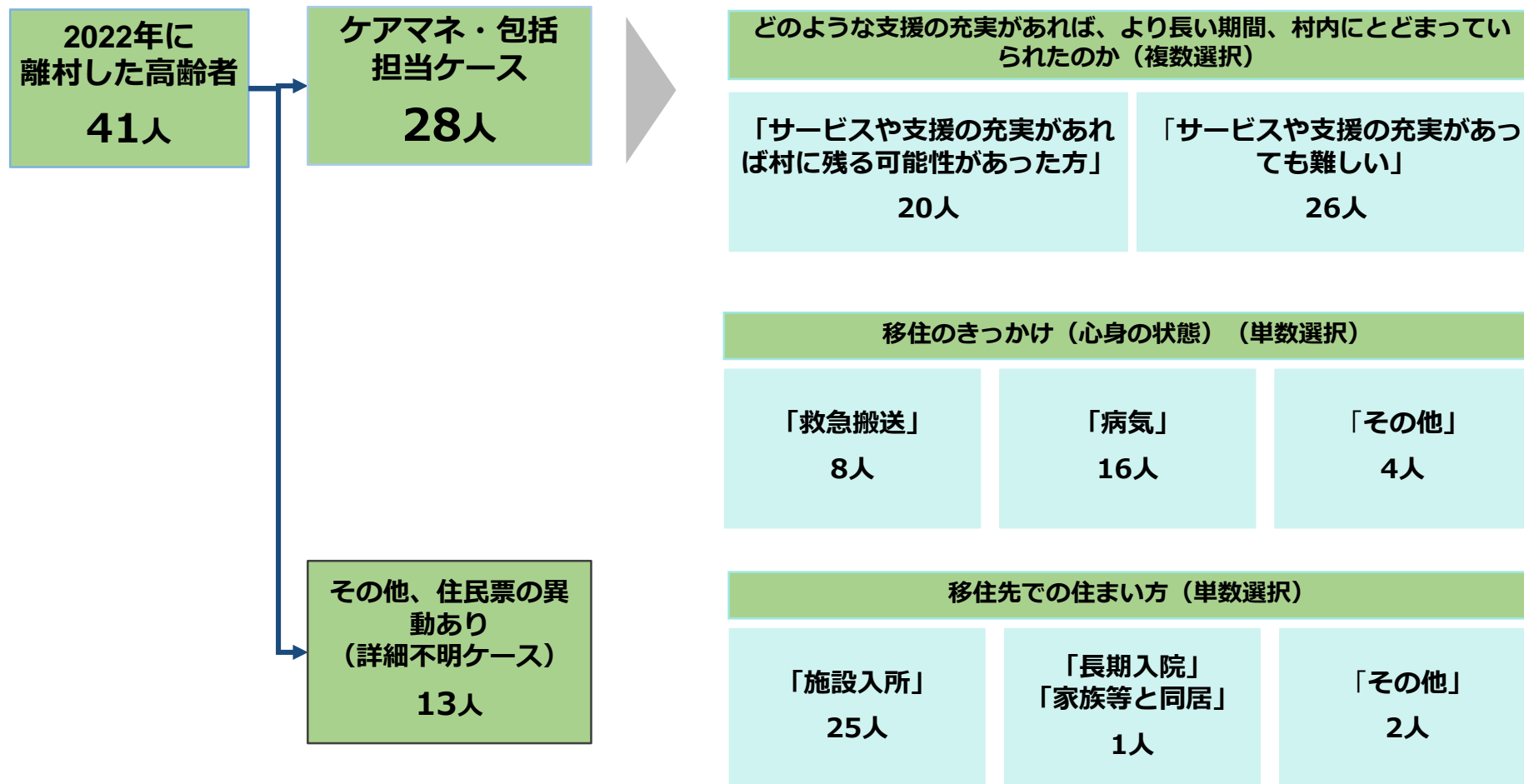
# 令和4年度村を離れた高齢者の調査結果

- 65歳以上：1,692人
- うち要介護認定者：321人



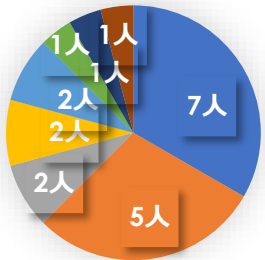
# 令和4年度村を離れた高齢者の調査結果

- 65歳以上：1,692人
- うち要介護認定者：321人





# 要介護認定状況

作業	進捗状況									
● 集計 分析	全体の要支援・要介護状況（令和3年12月時点）									
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	 <p>※村外転出者グラフ：21名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 有料老人施設</li> <li>■ 老健施設</li> <li>■ 療養型施設</li> <li>■ 福祉施設</li> </ul>
	村内	29	37	44	47	47	64	24	292	
	村外	2	0	3	3	4	6	3	21	
	※村外転出の21人：【内訳】老健5人、有料老人ホーム7人、療養型2人、特養2人、高齢者住宅2人、妹宅1人、グループホーム1人、生活支援ハウス1人									
今回調査した転出に至った方の介護認定の状況										
対象者	未申請	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
41人	13人	2人	3人	8人	7人	3人	2人	3人		
※未申請の方が13人、次いで要介護1と要介護2の方が多。介護認定と関係なく転出している方が多いことが分かった。										
重度認定者の転出は少ない。有料老人ホームへの転居が4名、特養2名、老健1名										

## 転出の理由

---

### ★【要介護認定者】

- 入院等で要介護状態となった、緊急時の対応を優先に判断して家族が住んでいる近くの施設を希望した。
- 独居で入院後本人の身体状況が変化して、在宅生活が困難となった為。
- 同居者が死亡し、1人での生活が困難となった為。
- 本人・家族が村内施設を拒否した為。
- 鼻腔栄養や尿カテーテル留置等医療ニーズが高くなり、村内の施設では対応が出来ない為。
- 脳血管障害など障害のある方で家族が地域の人に状態を知られたくない
- パートナーが施設入所したので1人になった。村内に親族がいないので地元の家族の支援を受けることとなった。

## 転出の理由

---

### ★【未申請・軽度認定者】

- 村内に仕事がない。日雇いやバイトを掛け持ちしたい。
- 親族の家を間借りしていたが、家族が戻ってきたので転居せざるを得なかった。村内アパートが5万以上が相場の為、高齢者が1人で住めるところがない。
- 同居している家族からの言葉の虐待があり、他の家族との同居が必要となった為(家族の所在地でサービスを利用する為)
- 独居で出生時より歩行障害があった。70歳を過ぎて子供が「一緒に住もう」と言ってくれた為。
- 離婚したので地元に戻った。
- 夫のDVをきっかけに一時保護。今後も繰り返すことが予測された為、村外の高齢者アパートへ転居。

## どんな支援があれば済み続けられたか

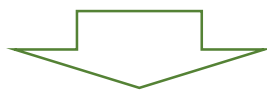
### 【要介護認定者】

#### 入所施設の利用充実

- 小規模多機能施設や有料老人ホーム等施設があれば、村内に留まることができるのではないか？
- 訪問介護や通所介護等介護サービスの充実。
- 訪問介護や通所介護が施設の職員不足で資格職員の充実

### 【未申請・軽度認定者】

- 家屋の老朽化、災害等に対しての住まいへの支援。
- 高齢者でも低額で住めるところがあれば、転居しなかった。
- 仕事があれば、国頭で生活することが出来た。
- 気軽に利用できるサービス、ボランティアの充実。



※要介護認定を受けた方は、施設や介護サービスの充実が求められる。  
未申請・軽度認定者では、仕事や住まいに関する支援体制が求められる。  
地域の見守り体制、ボランティア(生活支援)があれば長期に村内で生活することができる。

# 今回の調査から見えたこと

# 仕事がないための転出

今回転出した方を対象に調査を取り組んでみて、未申請・軽度の段階で転出を余儀なくされたのが、仕事や住まいの課題があると気付きました。高齢者でも就職につながる対策の検討が必要だと感じ、企画政策課や商工観光課、教育委員会等各関係機関と連携していきたい。

## 家族の希望

要介護認定者の大半は、入院をきっかけに「1人にしておくことができないから」と施設入所の相談があり、「国頭で生活したい」と主張しても子供達の要望に本人の意思を尊重できず、施設入所に至っている。村内の介護サービスや施設の充実を図っていく必要がある。

## 早期の見守り体制づくり

国頭村の現状として、高齢化率が50%を超えている地区が20字中で4字あり、高齢者を支える体制づくりをどう行っていくか課題が山積みです。施設入所や転居により、空き家が増え地域の見守りや互いの家を行き来することが減っている現状にもあります。地域の見守り体制づくりやボランティアの組織作りを取り組んでいきたい。



## 住み慣れた地域で住み 続けるには？

独り暮らしで90歳を過ぎても自立しておい畑  
仕事(あったいぐあー)を行っている、自分の役割  
を持ち、住み慣れた地域に住み続けたいと願  
う高齢者も多い。その為に地域の見守りをどの  
ように行っていくか地域の課題も見えてきた

# 調査から見えてきたこと今後の取り組み

- ◆入院後在宅に戻るか、家族のいる中南部か迷っているとき情報を共有することで気づきがあり対応ができるのではないか。
- ◆転出の手続きに家族が来たとき具体的に転出理由を聞くことがなくこの人に何がベストな状態か今後国頭で済み続けたい人へのニーズを把握してできる限り支援できるように早めの取り組みが必要と思われる。
- ◆高齢者が地域で済み続けるために地域の空き家でシェアハウスなどができれば地域の見守りもできるのではないか。関係機関と連携していく

---

**★「離島・北部3村における地域包括ケアシステム構築モデル事業」に参加して、転出した方を1年追跡するだけで多くの課題が見えてきました。それに対して関係機関と連携し、具体的に取り組んでいきたいと思えます。**

ご清聴ありがとうございました。

